

めぐみイエス・キリスト教会

2023年1月8日(日)新年礼拝
午前10時00分より
週報「通算第639号」



2022年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌411「御恵みの高嶺に」 p. 658

【交読文】 No.26 詩篇第84篇 p. 899

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 102

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「愛の国となるために」

【聖書朗読】 第Ⅰヨハネ5章4節～5節 新約p. 110下段

【礼拝説教】 《2023年度標題聖句(世に勝つ者とは)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所「第Ⅰヨハネ5章4節～5節」

5:4 神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

5:5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

●ポイント1.「神によって生まれた者」とは？

※ヨハネの福音書1章12節～13節「使徒ヨハネの確信」(新約p.175)

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

1:13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

※ヨハネの福音書3章3節～5節「ニコデモへの主の言葉」(新約p.179)

3:3 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

3:4 ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるでしょうか。」

3:5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」

●ポイント2. 「世に勝つ」とは？

※ヨハネの福音書16章33節「主イエスの弟子への約束」(新約p.219)

16:33「これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたが私にあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝ちました。」

●ポイント3. 「イエスを神の御子と信じる者」とは？

※ヨハネの黙示録3章20節～21節「ラオディキア教会へ」(新約p.496)

3:20 見よ、私は戸の外に立ってたたいている。だれでも、私の声を聞いて戸を開けるなら、私はその人のところに入って彼とともに食事をし、彼も私とともに食事をする。

3:21 勝利を得る者を、私とともに私の座に着かせる。それは、私が勝利を得て、私の父とともに父の御座に着いたのと同じである。

※ローマ人への手紙8章31節「使徒パウロの確信から」(新約p.310)

8:31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

◎先週の礼拝メッセージ【羊飼いとみどり児イエス】

《「その地方」とは、ベツレヘム郊外のことです。羊飼いたちが羊の群れの夜番をしていました。すると突然、主の使いが現われたのです。「恐れることはありません。今日ダビデの町で、あなたがたの為に救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。」
「さあ、ベツレヘムまで行って、この出来事を見届けて来よう。」

御霊によって導かれ、彼らは洞穴の家畜小屋に辿り着きます。そして若い夫婦と、飼葉桶の中に眠っているみどり児を見つけるのです。

羊飼いたちは、生まれたばかりの「みどり児」を礼拝します。彼らこそ、最初の礼拝者なのです。それから彼らは、このみどり児について、御使いが自分たちに告げ知らされたことを、知らせます。すると、『聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた』とあります。と言うことは、ヨセフとマリアと羊飼いたち以外にも誰かがいたことになります。これは推測ですが、宿屋のおかみさんとお産を手伝った女性がいたのではないのでしょうか。確かに宿屋は満員で、ヨセフとマリアの泊まる場所はなかったのですが、旅人を持つことが美德とされるユダヤ社会において、二人が見捨てられるはずはありません。それゆえ、宿屋のおかみさんが、家畜小屋に案内したと思われれます。

さて、羊飼いたちは、神をあがめ、賛美しながら帰って行きました。主イエスは、ご自身を「羊飼い」にたとえて、こう言われました。『「私は良い牧者です。私は私のものを知っており、私のものは、私を知っています。また、私は羊たちの為に自分のいのちを捨てます。」』と。

主イエスは、私たち人間と言う羊の羊飼いとして来られたのです。このお方だけが死ぬ為に、十字架にかかる為に、私たちの救い主として、生まれて下さいました。そして今日は、その誕生日なのです。》

お知らせ

※次回の礼拝は、1月15日(日)です。その後、鈴木師は「聖書キリスト教会大会(午後2時より)」に出席する為に、東京に向かう予定です。